

社会福祉法人



働きやすさの介護業界No.1を目指して

現場スタッフ600名以上のアンケートをもとに 本当に働きやすく 改革

新しい働き方をする現場スタッフへインタビュー

働きやすさを実現する「研究発表会」

チームを組み 改善を研究

青山里会では職員それぞれが普段身近に感じている課題や疑問を持ち寄り、チームで課題解決につなげる「研究発表会」を年に1回開催しています。利用者・介護者・調理者それぞれが使いやすい食器について、

器についての提案をまとめ、変更を実現したグループのメンバー、作業療法士の高山文恵さんと管理栄養士の岡田良子さんに、準備から実現に至るプロセスを聞きました。



研究発表会を通して自分たちの意見が採用されたと話す高山さん(左)と岡田さん

勤務する特別養護老人ホームで使っている食器類が「今いる利用者さんに合わない」という声が多く、改善を研究した結果、新しい食器を導入しました。

計118人分の食器を購入後も、従来品と新食器の利用比較を数値化し、食べこぼしが減少したこと、職員の意識調査からも利用者が食器を使いやすくなったことなどが明確に。

現場の声が反映される職場

青山里会で見つけた わたしたちの働き方

時短勤務で仕事と子育ての両立

7年前から正職員として勤務し、長男・次男の出産や育児休業を経て、現在は法人本部人事部で時短勤務をしている澤木真由さん(37)に、制度のメリットや気持ちの変化などについて伺いました。

保育園への送迎のため、6時間勤務を選択した澤木さん



保育園の送迎のため、6時間勤務を選択した澤木さん

「元は社外のひととの関わりが多い部署だったため、最初は慣れないことも多かったのですが、上司や周りのスタッフからのフォローも心強かったです。給与や有給休暇の時間の考え方も、疑問に思っていたことも少しずつ解決し、短い時間の中で『より効率良く仕事をしよう』という意識になってきました。本当にこの勤務制度に助けられています」と笑顔で話していました。

澤木さんには今後、看護休暇や時短勤務を始めとした各種制度について、の相談窓口や、自ら求めずとも必要な情報にアクセスできる環境整備などの役割を期待されている

「子育て中、その後の2人の子を出産し、産休と育休を2回とりながら、勤続16年目の谷口容子さん(41)は、常勤で、管理者としてフルタイムで勤務しています。子どもの学校行事で休む時は、今しかできないから、行ってあげてほしい」と言葉をかけてもらっているそうです。子どもを



産休と育休を活用し、16年勤める谷口さん

育休への理解がある職場

第一に考えたい谷口さんにとって、理解してくれる先輩がいることが心強いそうです。1時間単位で有給休暇を取得することができると、数日間職場を離れ、学校行事などに参加する人もいます。

入浴など介助が必要だった動作が自分でできるようになった利用者を見たときは、自分のことのように喜び、雰囲気も明るくしています。介護の仕事は大変と思う人も多いが、やりがいを感じ笑顔になれる。無資格でも研修制度が充実していて、スキルアップもできる。変化を恐れず色々なことにチャレンジしていきたいと笑顔で話していました。

青山里会では今年4月から育児両立支援制度を拡充しました

育児短時間勤務制度

- 対象年齢が広がります
お子さんの3歳の誕生日前日まで → 4歳の誕生日前日まで延長
- 1日の就業時間の選択肢が増えます
6時間 → 5・6・7時間から選択できるように

子の看護休暇制度

※子どもの病気の看病等

- 対象学年が広がります
小学校就学前まで → 小学4年生未満まで延長
- 子が3歳になるまでは取得できる日数が増加
5日(2人目以降10日) → 8日(2人目以降16日)に増加

本当に働きやすい 介護施設を目指します

10拠点56事業所で、1,000人以上のスタッフが活躍中です。

職員インタビュー、働きやすさへの取り組みなどリクルートサイトで紹介しています [こちら▶▶▶▶](#)

ケアマネージャー、看護師 募集中!!



楽しく成長できる青山里会で一緒に働きませんか?

ケアワーカー 勝野 雄大さん

ケアワーカー 中条 未奈来さん

みえ働きやすい 介護職場取組宣言

青山里会

福祉でつながる 一人一人が 毎日を「らしく」生きるために



四日市市山田町5500-1

求人のお問合せはこちら

059-328-2177 (代表)